

「オトコだとして悩みを相談したい」。全国の自治体が設けた男性専用の相談窓口が、意外な人気を集めている。利用者の中心は二十、四十代で、内容は夫婦関係や仕事など様々だ。自治体の狙いは男性の自殺防止などであるが、身近な生活の悩みも少なくないらしい。黙って我慢するよりも、この窓口で話した男たち。そのワナは……。

相談男

じわり増加

生活 コミュニティ

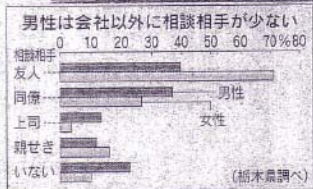
「黙って我慢するよりも、私のやり方が良かったら、相談したのほおや。妻に離婚を切り出された。相談してきた男性は、その感謝し電話を切った。」

東京都が運営する東京ワイメンズプラザ(東京、渋谷)で週二回実施している男性向け電話相談の「コマダ」。もともとは女性向けの相談業務を行っていた同プラザが、男性にも専用の窓口を設けたのは二〇〇二年のこと。利用者は徐々に増え、今では毎月約三万件、電話がひっきりなしに、苦情がくるほどだ。

三県県なにも電話窓口を設けた。当初は配偶者、パートナーによる暴力(DP)の男性加害者との対応などを想定していたが、一般の男性からの相談が相次いだ形。黙って耐えるのが当然と思われがちな男性が、積極的に相談相手を利用している。利用者は二、四十代が中心だ。

背景には男性気質の変化がある。県立かながわ女性センター(神奈川県横浜市中区)では、女性向けの「一般相談」に〇五年間だけで約二百八十件もの男性の相談が寄せられた。他の自治体の

黙って我慢はもうツライ



仕事や夫婦関係…自治体も窓口

「産業カウンセラーの岡後介さん。その奥、自治体の窓口の多くは無料で、匿名での利用も可能。対応者は臨床心理士ら専門家が多数、職場の枠にとらわれたい対応ができる。」「職場の窓口を避けて、さすがに自治体の窓口を頼ってくる会社員が多い。」「子育てのこと。また、ほとんどの自治体は女性の相談を手がけており、夫婦関係の悩みでは、ウハウハと驚愕されている。」「一五十年前の妻が不機嫌で急に家事をしなくなった。」「こうした相談に対し、大阪市内では「女性の更年期に関する情報などを提供する」ともある。」

「終身雇用の崩壊など仕事の環境が様変わりしている。」「男性たちの足場がぐらついていて、もはや黙って耐えていたって、自分も家族も支えられない。そんな切迫感がある」とも。最近では企業でも相談窓口を設ける動きが広がっている。しかし、「人事評価が多くなり利用をためらう人が多いのでは」と話すのは、大阪市で男性の相談を受け

「悩みを打ち明けるとは自殺防止の第一歩」と相談の効果に期待する。栃木県が先月発表した調査によると、家族以外に相談相手がない男性は二二・七%、女性より一〇ポイント高い。孤立は鮮明だ。相談窓口の存在がオトコ心を救う効果は、想像以上に大きいのかも知れない。

日経 07.4.13